

## 令和元年度第3回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和元年8月13日（火曜） 19：00～21：00

場 所：TAMA女性センター 活動交流室

出席委員：木本喜美子委員、安藤慎次委員、飯島明美委員、神子島健委員、神山直子委員、  
堤香苗委員、真野文恵委員（会長・副会長以下50音順）

欠席委員：広岡守穂委員

事務局：山本課長、西担当主査、吉田主事

傍聴者：2名

（発言者凡例：◎会長 代理：木本喜美子委員、○委員、◇事務局）

### 1 開 会

### 2 報 告

#### （1）令和元年度第2回男女平等参画推進審議会要点録（案）について

◇令和元年度第2回要点録（案）について修正等があればこの場でご意見を頂くか、  
8月20日（火曜）までに事務局にご連絡を頂きたい。

◎この場では特になし。

### 3 議 題

#### （1）平成30年度「多摩市女と男がともに生きる行動計画」推進状況の外部評価について

◇資料14「平成30年度 多摩市女と男がともに生きる行動計画推進状況外部評価  
（案）」について議論。

◎平成30年度の評価では、以下の3点を重点的に取り上げることとする。

##### ①各種委員会女性比率について

○女性委員の比率が50%以下の主な要因として、行政内部自己評価の文言で「選出要件で職指定と記載されている場合や高度な専門性を求めると」といった表現は、女性が高度な専門性をもっていないように捉えられてしまう。

◎「高度な専門性」という要素を男性に結びつけたジェンダー化したものの捉え方が、全庁及び各課の回答に表れている。「高度な専門性＝男性」という強い囚われを払拭すべきだ。

- 職指定だとしても、多摩市はまだ男性社会で女性の人材が足りないのか、市内在住・在勤といった要件をなくして女性委員を増やすことはできないのか。そもそも、職指定の必要性について委員選出の際に議論されたことがあるのか。
- ◎審議会として、「どの委員会でも男女平等参画の視点を欠かしては困ります」ということを外部評価で指摘したい。
- ◎行動計画の目標達成に向けて、各部署が考え、改善策を市から示してほしい。

## ②相談事業について

- 「市報」という表現があるが「たま広報」の方が市民には馴染みがあるので、「たま広報」と書く方が良いのではないか。
- 相談周知カードの作成は本当に効果が見込めるのか。
- 相談件数の増減だけで相談事業の周知について評価するのは難しいということ、審議会でも以前から課題として議論されてきた。今回は周知方法の工夫について評価する。特にSNS世代のことを考えると、SNSの活用に関する予算をつけることが重要で現実味のある検討課題になってくると考える。
- ◎「たま広報」で載せ方をもう少し工夫して目を引くような中身にしてはどうか。例えば、特集を組み、1年間の相談内容の特徴などを記事にすることで、市民に「こういうことを相談していいんだ」ということを示すことができるのではないか。
- ◎市の専門相談員に相談できることをしっかり伝えることで、相談先の選択肢の1つに市が入るようにしていくべきである。
- 相談者が、どの媒体を経由して相談に来たのかを集計し分析すべきである。

## ③TAMA 女性センターの認知度について

- 女性センターの利用者の年齢、世代がそのまま上がっているという認識がデータ的に誤りでないのであれば、「若い世代にアプローチできてないことに危機感を持ってほしい」という様な表現を入れた方が市に危機感を持ってもらえるのではないか。
- シニア世代特有の課題や問題もある。若い世代に対してはツールの使い方を工夫したり、シニア世代に対しては字の大きさを工夫したりするなど、アプローチ方法を年代ごとに変えることが必要なのではないか。
- 女性センターは何ができるところで、利用するとどのようなメリットがあるのかということ、市民は知らないのではないか。
- 女性センターにどのような職員がいるのかがわかりづらい。女性センター職員や相談員の顔が見えると利用しやすくなるのではないか。
- 聖蹟桜ヶ丘と多摩センターは二分化されているとよく言われる。多摩センターに出張所は置けないか。

- ◎本日の議論を踏まえて案を修正し、各委員の確認が完了してから確定とする。

## (2) その他

- ◎第6回推進審議会は令和元年11月25日(月曜)、12月2日(火曜)、12月9日(月曜)を候補日とし、会長と調整のうえ実施日を決定することとした。